

# 志和池中学校だより



令和7年8月号 文責校長

「夏の挑戦」～九州中学大会～  
テニスでは、前廣美友さんが県大会で優勝し、九州大会（佐賀県）では強豪相手に2勝を挙げる素晴らしい活躍を見せてくれました。相撲（宮崎県）では、東柊吾さん、平沼凜さん、東真有さんが、経験や体格で勝る相手にも果敢に挑み、健闘しました。真有さんは全国大会（熊本県）に出場するなど、大きな舞台での挑戦でした。夏は、皆さんを大きく成長させてくれますね。

## 2学期のスタートです

34日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。皆さんの夏休みはいかがでしたか。まずは、大きな事故の報告がなかったことをうれしく思います。全国では痛ましい水の事故などが報道される中、皆さんは安全に生活してくれたようです。

8月26日の始業式では、各学年の代表生徒が2学期の抱負を力強く述べてくれました。1年生代表の黒木 要さんは、2学期に頑張りたいこととして、「あいさつ」、「授業への集中」、「行事や委員会活動への積極的な参加」、「提出期限を守ること」の4点を挙げました。これらの取り組みを通じて、学年全体で成長していきたいという決意を語ってくれました。

2年生代表の巢立 紗那さんは、「勉強」と「部活動」の両立を目標に掲げました。質と量を高めた学習と、怪我を克服して大会出場を目指すという強い意志を述べるとともに、「自己管理」を徹底していくことを誓いました。また、学年全体がより良い方向へ進むよう、周りに声をかけ、楽しく安全な学校生活を送りたいと語りました。

3年生の上野 竣聖さんは、部活動で部長として責任ある役割を担った経験から、「自信」がついたと話してくれました。そして、受験という「決断の時」を前に、「当たり前前」の自分を当たり前にする」という姿勢を大切に、日々の努力を未来へとつなげたいという熱い思いを伝えてくれました。

3名の代表者の発表内容が違うのは当然ですが、決定的に違うものがもう一つあります。それは、中学校生活に残された時間です。特に3年生は、残り7ヶ月です。これまでの自分を振り返り、行事や日々の勉強に時間を意識して取り組んでほしいと願います。

## 私たちに何ができるか

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話（抜粋）をさせていただきました。

（前略）本年度の生徒会スローガンは「巡る」です。これは、一人一人の行動が巡り巡って未来につながる、という思いが込められています。

右は「寺小屋サロン」の様子です。約150名の生徒がボランティアとして協力してくれました。小学1年から6年の約90名の子どもたちをサポートするのは大変だったことでしょう。地域の方々からは、皆さんの協力にいつも感謝の言葉をいただいています。「本当にありがたい」「皆さんの存在が頼もしい」という言葉からは、皆さんが地域にとってどれほど大きな力になっているかが伝わってきました。

これはきっと、「私たちに何ができるか」を考え、行動した皆さんの力が、地域の人々の笑顔や喜びとなり、それが志和池の未来につながっているからだと感じています。「生徒の力で何ができるのか」という気持ちを大切に、これからも育ててほしいと願っています。

2学期も「感謝、自立、挑戦」の心を大切に、皆さんの心と体が大きく成長する学期になることを期待しています。

学習、スポーツ、文化、すべてに燃えていこう！

